

凍結標品の復元方法

この度は、弊機構の菌株をご利用頂き、ありがとうございます。標品はクライオチューブに保存され、凍結した状態で発送しております。

糸状菌・放線菌・酵母の標品には、寒天培地に培養した当該菌株を寒天ごと打ち抜いた、菌体ディスクが含まれています。一部酵母・ラビリンチュラ類・放線菌以外の細菌の標品は、寒天培地または液体培地に培養した当該菌体を凍結保護液に懸濁しています。

<糸状菌の復元方法>

<準備と標品の解凍>

(1) 別記の復元用培地を用意する。

(2) 30℃（湯浴もしくはヒートブロックが望ましい）で3分間保持し急速解凍する。

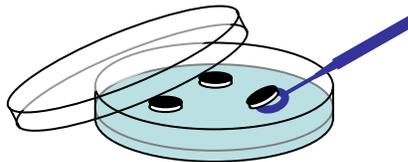
注）温度変化によりチューブの蓋が弛む場合があるので、コンタミネーションしないよう充分気を付けること。特に、湯浴の場合はお湯が蓋より上部にいかないよう注意する。

<植菌方法>

(3) チューブの周囲を70%エタノールで拭き、クリーンベンチ内で、上記(1)の復元用培地に移植する。

POINT!

★チューブ内の菌体ディスクすべてを白金耳または鉤で取り出し、菌体ディスクをできるだけ崩さないように培地に置くこと。



(4) 指定温度で培養する。生育に長時間を要する菌株もあるので、必要に応じて2週間から1ヶ月ほど培養する。

(5) 一度解凍した標品は-80℃の冷凍庫で再凍結し、保存することができるが、凍結融解を繰り返すと復元しなくなることがある。

注）一度解凍した標品を-20℃で凍結しないでください。凍結時に大きな氷の結晶ができ、細胞を傷つけることがあります。

★上記の条件通り実施したにもかかわらず、生育しないときやご不明な点がある場合は下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先

独立行政法人製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター
生物資源利用促進課 RD 株提供担当
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
TEL 0438-20-5763 FAX 0438-52-2329

凍結標品の復元方法

この度は、弊機構の菌株をご利用頂き、ありがとうございます。標品はクライオチューブに保存され、凍結した状態で発送しております。

糸状菌・放線菌・酵母の標品には、寒天培地に培養した当該菌株を寒天ごと打ち抜いた、菌体ディスクが含まれています。一部酵母・ラビリンチュラ類・放線菌以外の細菌の標品は、寒天培地または液体培地に培養した当該菌体を凍結保護液に懸濁しています。

<酵母の復元方法>

<準備と標品の解凍>

(1) 別記の復元用培地を用意する。

(2) 30℃（湯浴もしくはヒートブロックが望ましい）で3分間保持し急速解凍する。

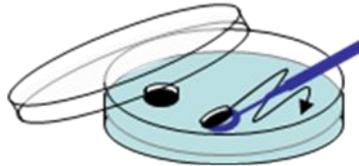
注）温度変化によりチューブの蓋が弛む場合があるので、コンタミネーションしないよう充分気を付けること。特に、湯浴の場合はお湯が蓋より上部にいかないよう注意する。

<植菌方法>

(3) チューブの周囲を70%エタノールで拭き、クリーンベンチ内で、上記(1)の復元用培地に移植する。

POINT!

★菌体が付着している面が培地に接するように菌体ディスクを培地に置き、培地に塗りつけ培地全体に広げる。菌体がディスクから剥がれて凍結保護液に沈殿しているもしくは菌体が凍結保護液に懸濁されている場合は、凍結保護液ごと菌体を培地に塗抹する。



(4) 指定温度で培養する。生育に長時間を要する菌株もあるので、必要に応じて2週間以上培養する。

(5) 一度解凍した標品は-80℃の冷凍庫で再凍結し、保存することができるが、凍結融解を繰り返すと復元しなくなることがある。

注）一度解凍した標品を-20℃で凍結しないでください。凍結時に大きな氷の結晶ができ、細胞を傷つけることがあります。

★上記の条件通り実施したにもかかわらず、生育しないときやご不明な点がある場合は下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先

独立行政法人製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター
生物資源利用促進課 RD 株提供担当
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
TEL 0438-20-5763 FAX 0438-52-2329

凍結標品の復元方法

この度は、弊機構の菌株をご利用頂き、ありがとうございます。標品はクライオチューブに保存され、凍結した状態で発送しております。

糸状菌・放線菌・酵母の標品には、寒天培地に培養した当該菌株を寒天ごと打ち抜いた、菌体ディスクが含まれています。一部酵母・ラビリンチュラ類・放線菌以外の細菌の標品は、寒天培地または液体培地に培養した当該菌体を凍結保護液に懸濁しています。

アルベオラータの復元方法は、ラビリンチュラ類と同様です。

<ラビリンチュラ類の復元方法>

<準備と標品の解凍>

(1) 別記の復元用培地を用意する。

(2) 30℃（湯浴もしくはヒートブロックが望ましい）で3分間保持し**急速解凍**する。

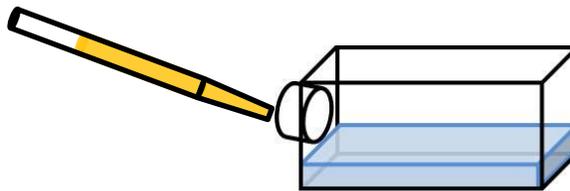
注）温度変化によりチューブの蓋が弛む場合があるので、コンタミネーションしないよう充分気を付けること。特に、湯浴の場合はお湯が蓋より上部にいかないよう注意する。

<植菌方法>

(3) チューブの周囲を70%エタノールで拭き、クリーンベンチ内で、上記(1)の復元用培地に移植する。

POINT!

★培地に植菌する際に、コンタミネーションしないよう気をつけること



(4) 指定温度で培養する。生育に長時間を要する菌株もあるので、必要に応じて2週間以上培養する。

(5) 一度解凍した標品は-80℃の冷凍庫もしくは-170℃の液体窒素タンクで再凍結し、保存することができるが、凍結融解を繰り返すと復元しなくなることがある。

注）一度解凍した標品を-20℃で凍結しないでください。凍結時に大きな氷の結晶ができ、細胞を傷つけることがあります。

★上記の条件通り実施したにもかかわらず、生育しないときやご不明な点がある場合は下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先

独立行政法人製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター
生物資源利用促進課 RD 株提供担当
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
TEL 0438-20-5763 FAX 0438-52-2329

凍結標品の復元方法

この度は、弊機構の菌株をご利用頂き、ありがとうございます。標品はクライオチューブに保存され、凍結した状態で発送しております。

糸状菌・放線菌・酵母の標品には、寒天培地に培養した当該菌株を寒天ごと打ち抜いた、菌体ディスクが含まれています。一部酵母・ラビリンチュラ類・放線菌以外の細菌の標品は、寒天培地または液体培地に培養した当該菌体を凍結保護液に懸濁しています。

<放線菌の復元方法>

<準備と標品の解凍>

(1) 別記の復元用培地を用意する。

(2) 37℃（湯浴もしくはヒートブロックが望ましい）で3分間保持し急速解凍する。

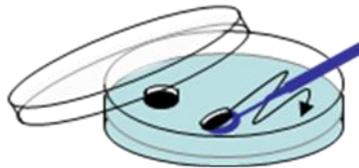
注）温度変化によりチューブの蓋が弛む場合があるので、コンタミネーションしないよう充分気を付けること。特に、湯浴の場合はお湯が蓋より上部にいかないよう注意する。

<植菌方法>

(3) チューブの周囲を70%エタノールで拭き、クリーンベンチ内で、上記(1)の復元用培地に移植する。

POINT!

★菌体が付着している面が培地に接するように菌体ディスクを培地に置き、培地に塗りつける、もしくは菌体ディスクを崩して培地全体に広げる。菌体がディスクから剥がれて凍結保護液に沈殿している場合は、凍結保護液ごと菌体を培地に塗抹する。



(4) 指定温度で培養する。生育に長時間を要する菌株もあるので、必要に応じて2週間以上培養する。

(5) 一度解凍した標品は-80℃の冷凍庫で再凍結し、保存することができるが、凍結融解を繰り返すと復元しなくなることがある。

注）一度解凍した標品を-20℃で凍結しないでください。凍結時に大きな氷の結晶ができ、細胞を傷つけることがあります。

★上記の条件通り実施したにもかかわらず、生育しないときやご不明な点がある場合は下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先

独立行政法人製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター
生物資源利用促進課 RD 株提供担当
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
TEL 0438-20-5763 FAX 0438-52-2329

凍結標品の復元方法

この度は、弊機構の菌株をご利用頂き、ありがとうございます。標品はクライオチューブに保存され、凍結した状態で発送しております。

糸状菌・放線菌・酵母の標品には、寒天培地に培養した当該菌株を寒天ごと打ち抜いた、菌体ディスクが含まれています。一部酵母・ラビリンチュラ類・放線菌以外の細菌の標品は、寒天培地または液体培地に培養した当該菌体を凍結保護液に懸濁しています。

<放線菌以外の細菌の復元方法>

<準備と標品の解凍>

(1) 別記の復元用培地を用意する。

(2) 37℃（湯浴もしくはヒートブロックが望ましい）で3分間保持し**急速解凍**する。

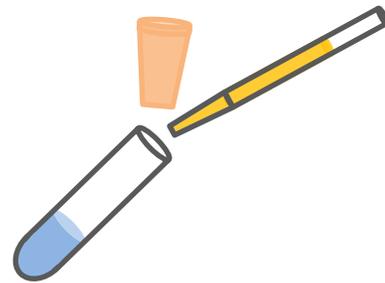
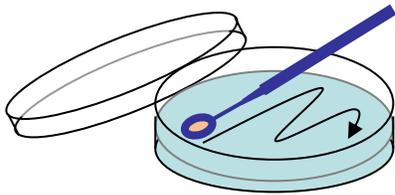
注）温度変化によりチューブの蓋が弛む場合があるので、コンタミネーションしないよう充分気を付けること。特に、湯浴の場合はお湯が蓋より上部にいかないよう注意する。

<植菌方法>

(3) チューブの周囲を70%エタノールで拭き、クリーンベンチ内で、上記(1)の復元用培地に移植する。

POINT!

★凍結保護液に懸濁された菌体を上記(1)の培地に植菌する



(4) 指定温度で培養する（液体培地の場合は静置培養を推奨）。

生育に長時間を要する菌株もあるので、必要に応じて1週間ほど培養する。

(5) 一度解凍した標品は-80℃の冷凍庫で再凍結し、保存することができるが、凍結融解を繰り返すと復元しなくなることがある。

注）一度解凍した標品を-20℃で凍結しないでください。凍結時に大きな氷の結晶ができ、細胞を傷つけることがあります。

★上記の条件通り実施したにもかかわらず、生育しないときやご不明な点がある場合は下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先

独立行政法人製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター
生物資源利用促進課 RD 株提供担当
〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
TEL 0438-20-5763 FAX 0438-52-2329